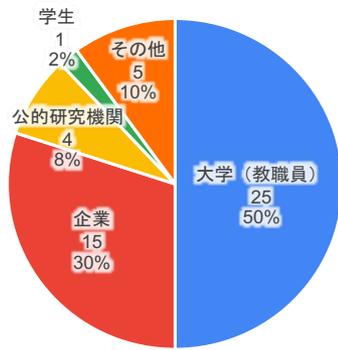


# 第27回日本免疫毒性学会学術年会アンケート結果（選択式質問回答および2.1)-②, 2.2)-①の回答要約）

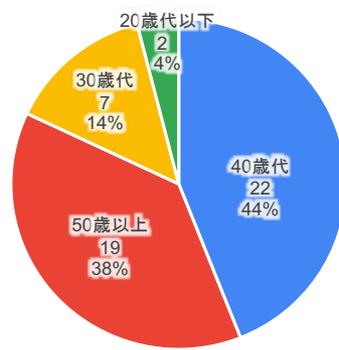
## アンケート回収方法



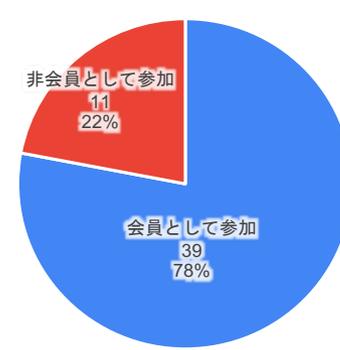
## 所属



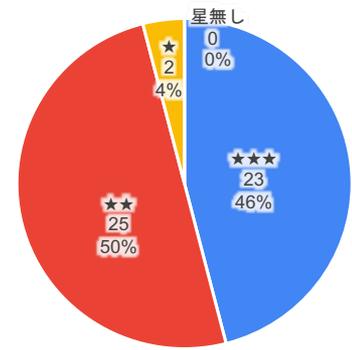
## 年代



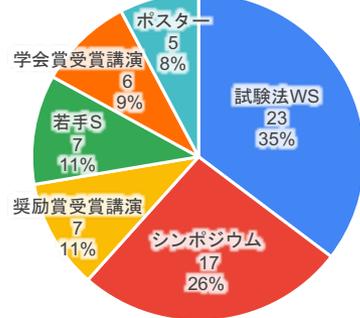
## 参加条件



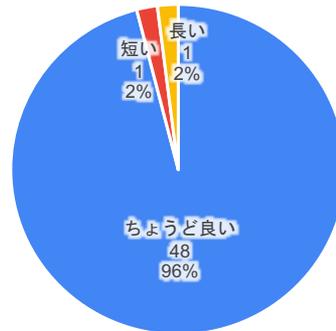
## 総評



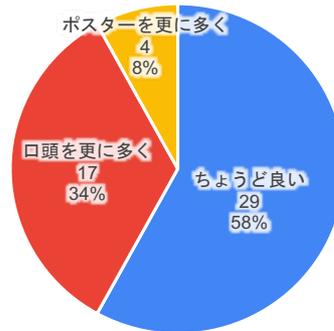
## 興味を持ったセッション/テーマ ＜要約＞



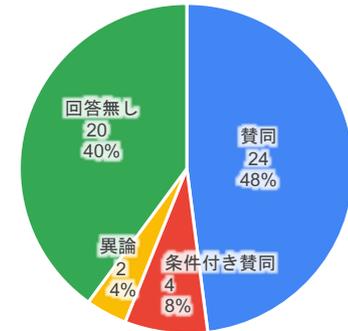
## 発表時間



## 口頭とポスターの比率



## 学会お試し制度 ＜要約＞



2. 1) ②興味をもたれた（おもしろかった、勉強になった等）セッションやテーマをあげてください。		
50歳以上	大学（教職員）	奨励賞などのライブは良かったと思います。
		若手セッション
		試験法開発
		試験法ワークショップ
		シンポジウム
		シンポジウム
		シンポジウム
		シンポジウム「免疫毒性学の過去、現在、未来」
	イメーシング	
	企業	免疫毒性学の過去、現在、未来
		試験法ワークショップの内容は勉強になりました。最新の技術情報は参考になります。
		シンポジウム「免疫毒性学の過去、現在、未来」と井上先生の学会賞受賞講演
	公的研究機関	アバガビルが時に何故特に皮膚において障害を起こすのか？
シンポジウム		
その他	試験法WS	
	すべてのセッションが充実していたと思います	
	シンポジウム（免疫毒性学的観点からのワクチン開発）	
	・免疫毒性学的観点からのワクチン開発 ・医薬品のin vivo免疫毒性を予測するための新規in vitro評価系の研究	
40歳代	大学（教職員）	若手セッション、受賞講演、試験法ワークショップ
		試験法ワークショップを特に興味深く拝聴しました
		試験法ワークショップ
		最先端技術の免疫応答評価への展開
		ワークショップ
		シンポジウム、試験法ワークショップ
		シンポジウム
		S-01, S-02, AL-01, AL-02, WS-01, WS-02
	ライブセルイメーシングの免疫毒性研究応用への可能性	
	企業	学会賞受賞講演
		ワクチン開発のご講演
		すべて
		HLA 遺伝子導入マウスを用いた特異体質薬物毒性研究、炎症性細胞死の1細胞イメーシング、ライブセルイメーシングの免疫毒性研究応用への可能性
	公的研究機関	試験法ワークショップ
試験法ワークショップ		
その他	試験法ワークショップ	
30歳代	大学（教職員）	学生若手セッション
		HLA変異マウスの検討について興味深く拝見させていただきました。他のシングルセル解析に関する内容にも興味がありました。
	企業	免疫毒性学的観点からのワクチン開発
		試験法ワークショップ
ワクチン関連 アトピー性皮膚炎に影響を及ぼすパーソナル製品の影響と推定評価		
20歳代以下	企業	若手セッション、試験法ワークショップ
	学生	炎症性細胞死の1細胞イメーシング

2. 1) ⑤ その他ご感想等ありましたら御願います。		
50歳以上	大学（教職員）	要旨を印刷できる方が理解しやすいと思う。
		都合上、若手セッションとポスター閲覧しかできませんでしたこと恐縮です
		抄録は、ダウンロードして、印刷できるように希望します。
		議論が白熱して良かったと思います。
		やっぱり対面がいいですね
	ゲストとして初日に講演しましたが、二日目はZoomにログインできませんでした。	
	企業	音声付きのポスター発表や掲示板等を利用したディスカッションがあると良いと思いました。
		ポスター発表の特に英字が小さくて薄く、見づらいものがありましたので（拡大しても限度が）、可能でしたら、もう少し大きのせていただくか、最小文字サイズ（あるいはフォント）を規定してほしいと思います。
	公的研究機関	Onlineということでいろいろお手数おかけしましたが、試験法委員会としてのwokshopも議論もしっかりできたと思います。有難うございました。
	その他	学会に自宅PCから参加したため、年会直前に勤務先宛に送信された講演要旨集の公開通知のダウンロード情報（ユーザ名、パスワード）が分からず、年会中に要旨集を入手できませんでした。次回からは、もう少し早く（少なくとも1週間以上前に）通知していただきたい。
web開催としての感想ですが、スライドはきれいで、講演の内容が聞き取りやすかったです。各先生が通常の口頭発表より気を使われたのではないかと思います。一般の口頭発表があるともっと良かったかもしれません。		
40歳代	大学（教職員）	発表スライドが、手元で見られたので、より理解しやすかった。
		抄録集は（eポスターを省き）パスワード付きで参加者にPDFで配布すべき
		後日VODを行って欲しいです
		印刷可能な抄録集のPDFを配布してくださると嬉しい。
	公的研究機関	要旨集をダウンロードできるようにして頂きたいです。
		web要旨集は少し使いにくかったため、ポスターを除く要旨だけはダウンロード出来ると良いと思いました。初のweb開催でしたが、先生方のご尽力により、色々と制限がある中でも良い年会となったと思います。大変お疲れ様でございました。
	企業	抄録集は印刷（出力）できるようにしていただき良かったです。
		画質、音質ともに良好で、良かったです。会費も安く気軽に聞けて、大変助かりました。録画があると、再度聞き直せるので、もしありますと嬉しく思いました。
	その他	一般演題の口頭発表がほしかったです。また、オンライン参加者同士のチャットができれば、個人的な質問などがやりやすかったのでは、と思いました。
	30歳代	大学（教職員）
できれば録画等を残していただいて、閲覧期間を長くしていただけると見逃したものも見れてありがたいです。		
企業		トキシコロジスト認定試験との日程重複は出来れば避けていただきたいかったです。
	オンラインだからこその他の勉強会があっても時間を工夫して気軽に参加でき、勉強になりました、ありがとうございました。	
20歳代以下	企業	Web接続もスムーズで快適に聴講させていただきました。初めての学会でしたが、若手の方からベテランの方まで幅広い演題を興味深く聴講させていただきました。

2. 2) ①現行の「学会お試し制度」(非会員でも1回に限り参加費のみで演題発表ができる)について聞かせてください。		
50歳以上	大学(教職員)	良いと思います
		良いと思います。
		良い試みだと思います。
		初年度のお試し制度はあってもよいとおもよいとおもいます。
		良いと思います。会員数拡大に繋がると思います。
		わかりやすい。
		良い
		Webなので、無料でもよかったと思います
	公的研究機関	とても良いと思います。
		良いと思います
	企業	実際にどのような効果があった(ある)か知りたいところではありますが、学会員を増やすことを目的とされている場合は、対象を発表者に限定するのではなく聴講するための参加者に拡大するという考え方もあるかと思います。
		学会及び年會を活性化するには良い方法だと思います。
その他	門戸は解放されている方が良いと考えますので、問題ないと思います。	
	年會各賞目的の一時参加に利用されず、会員増につながれば良い制度と思います。	
40歳代	大学(教職員)	良い制度だと思います。
		継続すべきと思います
		いい制度だと思います
		継続して欲しいです
		この制度を利用した方で、本会員になられる方が多いようでしたら続ければ良いかと思います。
		良いと思います。
		よいと思います。
		学生さんなど、これから社会に出て学会参加を考えている方にとっては良いと思いました。
		今後免疫毒性分野の研究に興味を持つ方が学会員になるきっかけになると考えられるので、お試し制度はよい取り組みかと思います。
	企業	他の学会にはない挑戦的な試みでいいと思います。評価については、もう少し、実例が増えてみないと難しいのではないかと考えます。
		非常に良いと思います。
		良い試みではとしましたが、個人的には、SOTのように、非学会員でも共著者が学会員であれば、発表できるようにしてもらってもよろしいのではとしました。
参加へのハードルが低くなり、いいと思います。		
その他	多くの学会でも取り入れてほしい制度だと思います。	
30歳代	大学(教職員)	HP上でその話は見つけられていなかったですが、より多くの人が参加できる良い制度だと思います。
	企業	よいと思います
		よいと思います
20歳代以下	学生	良いと思います。

2. 2) ②学術年会Web開催の今後のあり方について、今後取り上げてほしいテーマ、若手セッションのあり方、その他ご意見等ありましたらご記入下さい。

50歳以上	大学（教職員）	今後もweb参加費が無料（会員）であること、若手研究者の更なる参加・発表に期待します。
		若手セッションの発表時間は、もう少し短くして、一般演題の口頭発表もあってゆよいとおもいます。
		抗がん剤・再生医療など。
		ワクチンの安全性
		HPVワクチンの免疫毒性はないと、学会で提言し、ワクチン推奨に働きかけて欲しい
	公的研究機関	webは多くの参加者が期待できるかと思います。ただ、集中できるのは集まった方が良いかもしれませんが、お金がかかるかもしれませんが、webと通常の同時開催も良いかと思いました。
		企業の研究者が現場で必要とする身近なトピック
	企業	COVID19につきましたの免疫反応
		参加者全員による投票により優秀な発表をえらぶ方法もあるかと思います（グループ票が集まらないような工夫は必要ですが）。
		web開催は交通費もかからず、参加しやすいので、ありがたいです。出張費の削減など会社に要求されることも多いので。テーマとしては、免疫毒性にあまりこだわらず、最新の免疫学的トピックを取り上げてほしいのかなと思いました（勉強になります）。
その他	年会は対面発表が良いでしょうが、学会独自のシンポジウムやセミナーなどをweb開催出来たら会員が増えないでしょうか。	
	コロナからの解放後は、現地開催とWeb配信のハイブリッド開催が「普通のこと」になると良いと思います。	
40歳代	大学（教職員）	臨場感のためには、発表者の顔は映っていた方が良いと思います。
		今年度は致し方無いと思いますが、次年度以降は状況が許す限り、通常開催が良いと思います。
		web開催を歓迎します
		Web開催は参加が容易であり会員拡大に寄与すると思われる一方、情報のデジタル化により流出し公知となる危惧は増すことから、適宜対策を講じた上で、それでもWebとのハイブリッド開催は可能な限り続けるべきではと思う。
		ストレスと免疫の関連性に関するテーマ
	企業	若手セッションについて、発表・質疑応答もしっかりと時間が取れていて非常に良かったと思います。
		皮膚感作試験の代替法について、詳しく知りたいと思います。
		今回のWeb開催は制限がある中、とても準備ができていて良かったと思います。事務局に質問していますが回答が無いので記載します。参加時のネームホルダーなどは配布されませんでした。本大会の参加証明書などは発行されますでしょうか？ また、第27回日本免疫毒性学会学術年会のWeb参加は、日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定資格更新の評点基準に利用可能でしょうか？（上述の参加証明書があれば利用可能でしょうか？）
	その他	発表者はやはり基本的には「顔出し」が望ましく、質問者も質問中は顔出しにした方が、距離感を縮めることにつながるのでは、と思いました。
	30歳代	大学（教職員）
企業		若手は毒性学会のように35歳までになりませんか？ 在宅からでも参加できるweb学会は、種々の事情で遠方へ行けない者にとって非常に助かりました。

3. 日本免疫毒性学会の今後の活動や方向性等について、ご意見やご提案等ありましたら、ご記入ください。			
50歳以上	大学（教職員）	特に無し。	
		学会自体は活性化されているので地道な広報活動をしていけば結果は付いてくると思います。	
		HPVワクチン普及に学会として働きかけるのがよい。 HPVワクチンの推奨を専門家として学会が提言する	
	公的研究機関	海外との学術交流	
	その他	取り上げてほしいテーマ： Molecular mimicryと免疫異常亢進（アレルギー、自己免疫、アジュバント効果など）の関係 時代とともに免疫毒性学の捉え方は変わって当然だと思いますので、今回の試験法ワークショップは大変時機を得たものであったと感心しました。勉強させていただきました。 企業からの発表が増えてほしい	
40歳代	大学（教職員）	従来の毒性の範疇にとられず、広く環境と免疫という視点で学会の魅力が広まり、会員拡大に繋がることを期待する。 益々の発展を祈ってます ワクチンに対して、学会としての積極的なステイトメンがあると良いと思います。	
		企業	レギュレトリーにかかわる分野や規制当局とのかかわりが増えると日々の仕事と直結することになり、ありがたいと思います。
		その他	そもそも「免疫毒性」の領域は相当に広く、望ましい免疫反応の減弱または亢進だけでなく、「医薬品等の望ましい恩恵を妨害する免疫反応」なども含めてよいのではないかと思います。 具体的には、遺伝子治療用ベクターに対する中和抗体の産生などです。
	30歳代	企業	勉強会や認定試験制度などがあると面白いと思います

4. ImmunoTox Letter (6月と12月の年に2回発行している学会誌；日本版と英語版があり、それぞれのpdf版を学会HPに掲載中) について、ご意見、ご提案等ありましたらご記入ください。		
50歳以上	大学（教職員）	受賞者や評議員の情報以外にも、会員の更なる自由投稿を促す方策を考える必要がある。
		今回の学会抄録は同誌に掲載するとよい
		一般からの投稿も受け入れてよいようにおもいます。
		ISSN登録とかはあるのでしょうか。
	その他	毎回楽しみにしております。 特にありません。
40歳代	大学（教職員）	他学会の会報誌とのコラボ企画などは手軽な学会交流になるのではないか。 益々の発展を祈ってます
		企業
	その他	ネットとの連動企画があってもよいかもしれません。ネットでニーズを募り、それに応じた誌面の特集企画を組む、といったこともできそうですね。